

新潟県公民館月報

昭和34年8月1日(毎月1回1日発行)

発行所 新潟県公民館連絡協議会
(新潟市奇居町・越佐自治会館内)

発行人 丸山直一郎

(定価 一部六円)

八月号 (78号)

公民館は果して住民全体の生活のなかに足をおろしているか

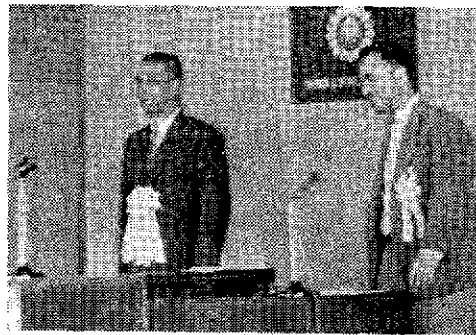


【大会会場】

「三副社会教ろしているか」究明する(大会 会長の尽力に対して大会の名に非
商の汚名を返す 主題 社教法施行十周年記念県公 いて感謝の意を表したい) 目が落
上し、地域の 民館大会は、七月三日四日の雨 られた。議長は石井副会長と交
実態に即した日、両津中学校で開催された。第 代、満場一致の賛成を得て、丸山
公民館のあり 一日は、開会式、表彰式のもの、 会長に対し、総員起立のうえ嵐の
方について 大会議長に丸山会長を選出、安沢 ちうな拍手をもって感謝の意を表
(公民館は県 常任理事の会務経過報告が行われ した。
して市町村民 た。このとき相川公民館長富田一 第二日は、参加者四〇〇名に
全体の生活の 郎比より緊急動議が提出され「こ よって八分科会が閉かれ、最後に
なかに足をを のための社教法改正に対する丸山 池島信平氏の二時間わたる記念
講演を熱心に聞いて、盛
会のうちには大会の程を明
じた。なお本年度の表彰
者は別項のとおりであ
る。

固定化を打ちやぶり総合的企画力を

第十回県公民館大会終る



【拍手を受ける丸山会長】



【全員起立して拍手】



【緊急動議に立つ宮田相川館長】

施設費補助さまる

新潟県中条町ほか七市町村

本年度公民館施設 設備費に対 相償をとらなう分としての補助を
する国庫補助は、各市町村の申請 交付される市町村はつぎの七市町
にもとずき文部省で審査中のとこ 村となるものとみられる。
る近く交付市町村が決定するもよ 宮城県歌津町▽高城県三股市
うである。本年度からは国庫補助 福島県藤田町▽佐賀県藤田町
が百万円以下のものは補助事業と 新潟県中条町▽鹿児島県薩摩町
して相償が認められることになっ 兵庫県上郡町
たので、各府県から申請が殺到し、 なお、従来の施設費補助(一市
相償をとらなう分は約三十市町村 町村二十万一千三万円)は二十六
その他の分は約六十市町村に達し 市町村に交付される見込みである
た。これらについて速考の結果、 (全公連速報)

目次

昭和三十三年度決算報告承認第一回議員会 P 2

県公連表彰優良公民館、館長、職員紹介 P 3

公民館訪問(相川公民館) P 4

全国大会特集 P 6

公民館活動が住民全体のなかに足をおろすには P 7

どうしたらよいか P 7

再び埋蔵文化財の保護について P 8

昭和33年度会計決算

収入の部

款 項	目	予 算 額	収 入 済 額	収 入 未 済 額
1分 担 金		482,000	397,928	64,072
1分 担 金		482,000	397,928	64,072
	1一般分 担 金	246,000	246,200	◎ 200
	2特別分 担 金	216,000	151,728	64,272
2県 補 助 金		500,000	500,000	0
1県 補 助 金		500,000	500,000	0
	1県 補 助 金	500,000	500,000	0
3繰 越 金		68,000	68,245	◎ 245
1繰 越 金		68,000	68,245	◎ 245
	1繰 越 金	68,000	68,245	◎ 245
4雑 収 入		168,000	175,515	◎ 7,515
1雑 収 入		168,000	175,515	◎ 7,515
	1過 年 度 収 入	152,000	148,380	3,620
	2資 料 販 売 料	1,000	8,740	◎ 7,740
	3募 金 換 付 金	13,000	9,300	3,700
	4雑 収 入	2,000	2,250	◎ 250
歳 入 合 計		1,198,000	1,134,843	49,467

本年慶弔一回評議員会は、公民館大会第一日を終えた七月三日午後八時より、阿津市公民館において開催され、昭和三十三年度会計決算承認議定の件について審議された。安田常任理事の説明、坂西監事の監査報告ののち、次表のとおり承認された。

第二回評議員会開かる

昭和三十三年度決算報告承認

支出の部

款 項	目	当初予算	現 額	流用額	予算現額	支出済額	残 額	備 考
1事 務 費		230,000	265,000		265,000	262,985	2,015	
1手 当		60,000	50,000		50,000	49,300	700	
	1手 当	60,000	50,000		50,000	49,300	700	
2旅 費		40,000	40,000		40,410	40,410	0	
	1旅 費	40,000	40,000	410	40,410	40,410	0	通信費より流用
3需 要 費		130,000	175,000		174,590	173,275	1,315	
	1備 品 費	25,000	35,000	5,820	40,820	40,820	0	雑費より流用
	2消 耗 品 費	45,000	45,000	2,396	47,396	47,396	0	通信費より流用
	3通 信 運 搬 費	50,000	85,000	△2,806	82,194	81,184	1,010	旅費へ流用410 消耗品へ流用2,396
	4雑 費	10,000	10,000	△5,820	4,180	3,875	305	備品費より流用
2事 業 費		861,000	875,000		875,000	740,143	134,857	
1大 会 費		30,000	48,844		48,844	48,844	0	
	1大 会 費	30,000	48,844		48,844	48,844	0	
2会 議 費		75,000	92,000		92,000	72,250	19,750	
	1評 議 員 会 費	15,000	15,000		15,000	14,990	10	
	2役 員 会 費	30,000	47,000		47,000	40,610	6,390	
	3幹 事 会 費	30,000	30,000		30,000	16,650	13,350	
3研 修 会		180,000	150,000		150,000	108,277	41,723	
	1講 習 会 費	50,000	50,000	1,340	51,340	51,340	0	研究費より流用
	2研 究 費	130,000	100,000	△1,340	98,660	56,937	41,723	講習会費へ流用
4月 報 発 行 費		360,000	371,156		371,156	322,697	48,459	
	1報 償 費	20,000	20,000		20,000	20,000	0	
	2取 材 費	100,000	81,156		81,156	36,098	45,058	
	3印 刷 費	226,000	256,000		256,000	252,690	3,310	
	4編 纂 委 員 会 費	14,000	14,000		14,000	13,909	91	
5連 絡 費		80,000	77,000		77,000	70,685	6,315	
	1全 国 大 会 費	30,000	27,000		27,000	26,698	302	
	2中 央 会 議 費	40,000	40,000		40,000	39,500	500	
	3そ の 他 連 絡 費	10,000	10,000		10,000	4,487	5,513	
6振 興 費		136,000	138,000		136,000	117,390	18,610	
	1県 内 振 興 費	50,000	50,000		50,000	44,040	5,960	
	2資 料 費	76,000	76,000		76,000	66,000	10,000	
	3そ の 他 振 興 費	10,000	10,000		10,000	7,350	2,650	
3負 担 金		30,000	33,000		33,000	31,620	1,380	
1負 担 金		30,000	33,000		33,000	31,620	1,380	
	1負 担 金	30,000	33,000		33,000	31,620	1,380	
4予 備 費		77,000	25,000		25,000	0	25,000	
1予 備 費		77,000	25,000		25,000	0	25,000	
	1予 算 費	77,000	25,000		25,000	0	25,000	
支 出 合 計		1,198,000	1,198,000	0	1,198,000	1,034,748	163,252	

収入済額 (1,134,843) 一支出済額 (1,034,748) =100,095

県公連表彰優良公民館館長職員紹介

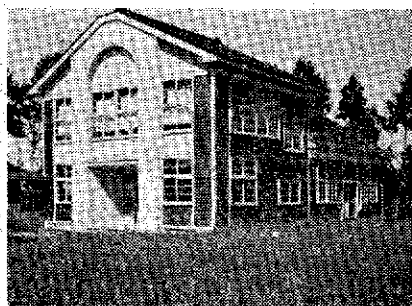
公民館三館館長三十二名

職員六十六名にのぼる

本年度県公連表彰公民館館長、職員は、各都市公連推せんによる公民館七館、館長職員功勞者百余名のなかから、表彰規程にもよき理事事会において選考決定を見たものであるが、それぞれに表彰状及び記念品として丸山会長高筆の色紙が贈られた。(順序不同)

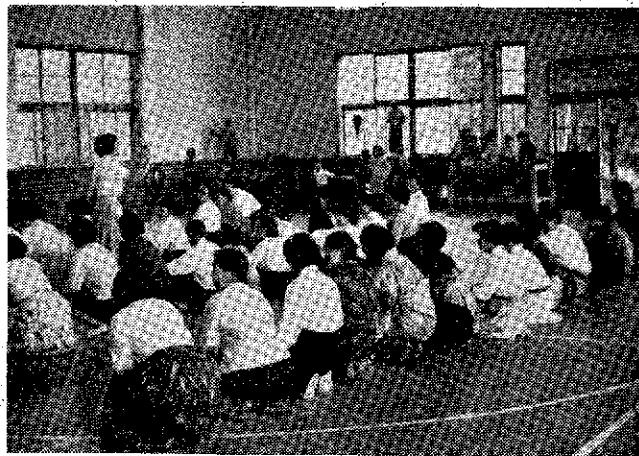
公民館の部 館長の部

- | 氏名 | 所属 |
|------|---------------------|
| 高田市三 | 佐藤 昭輝 栃尾市上塩谷公 |
| 郷公民館 | 神子田安法 " 中央公 |
| 新津市公 | 西山 篤郎 東頸城郡牧村公 |
| 民館 | 野中 勇 長岡市関原公 |
| 北魚沼郡 | 南海 力雄 南魚沼郡荒沢町中之島地区公 |
| 堀之内町 | 伊藤敬太郎 北蒲原郡黒川村公 |
| 公民館 | 熊谷 通一 " 豊清村公 |
| | 片桐 喜一 高田市津有公 |
| | 茂野 達衛 中蒲原郡村松町公 |



(高田市立三郷公民館)

- | 氏名 | 所属 |
|-------|--------|
| 百松 秀三 | 新津市小合公 |
| 神戸 公平 | 新潟市彌湖公 |
| 真壁松太郎 | 石山公 |
| 丸田 辰二 | 沼原公 |
| 長谷川平太 | 鳥屋野公 |



(婦人学級の樂い、美容体操の一騎ノ三郷)

元館長の部

- | 氏名 | 所属 |
|------|---------|
| 田巻 夫 | 元三系市中央公 |

- | 氏名 | 所属 |
|--------|------------|
| 内海 治市 | 南津市中央公 |
| 市橋千太郎 | 加茂公 |
| 田中 信 | 内海府公 |
| 岩川 諒 | 三島郡寺泊町大海津公 |
| 岩川 石京 | 西頸城郡能生町公 |
| 野沢 謙 | 西蒲原郡味方村公 |
| 丸山 星雄 | 糸魚川市根知公 |
| 丸山 善司郎 | 尼崎市今町公 |
| 原沢政五郎 | 南魚沼郡湯沢町公 |
| 田中 邦雄 | 塩沢町石打公 |
| 岩見義之助 | 白根市淡曾根公 |

職員の部

- | 氏名 | 所属 |
|-------|---------------|
| 佐野 次男 | 三島郡寺泊町公 |
| 近藤代平 | 岩船郡神林村公 |
| 渡部 英男 | 糸魚川市根知公 |
| 職員 総 | 糸魚川市大野公 |
| 水島 平三 | 糸魚川市大和川公 |
| 山崎 喜治 | 西頸城郡青海町公 |
| 立川 芳俊 | 北蒲原郡神村公 |
| 小沢 貫一 | 高田市春日公 |
| 武田 欣藏 | 蕨市公 |
| 田中 啓男 | 中蒲原郡小須賀町公 |
| 丸山 敏雄 | 中蒲原郡小須賀町公 |
| 徳永 章司 | 新津市公 |
| 乙川 静子 | 中蒲原郡龜田町公 |
| 福島 定治 | 白根市中央公 |
| 後藤 一治 | 南津市水津公 |
| 本間 裕 | 内海府公 |
| 富山 芳雄 | 南魚沼郡六日町五十嵐地区公 |
| 飯浜 一郎 | 栃尾市中央公 |
| 久川 福扶 | 中央 |

増井悌三郎氏へ 感謝状贈呈

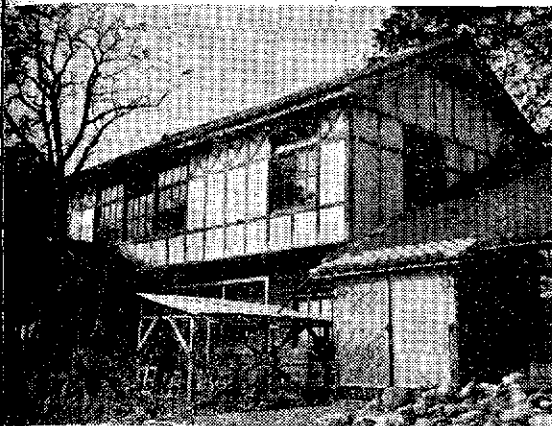
増井社教理事に贈呈した感謝状は次のようなものである。
貴殿は公民館運動提唱以來指導の任にあられその普及と発展に挺身し本県公民館の健全な進歩に寄与され、また本会の発足にも多大の貢献をされました社会教育法施行十周年記念第十四回新潟県公民館大会にあたり記念品を贈り感謝の意を表します
昭和三十四年七月三日
県公連会長 丸山直一郎

- | 氏名 | 所属 |
|-------|----------|
| 保科 瑞穂 | 東頸城郡牧村公 |
| 成島 継紀 | 岩船郡荒川町公 |
| 寺社 二三 | 山北村公 |
| 菅原 忠平 | 北蒲原郡安田村公 |
| 浅岡喜三郎 | 中条町公 |
| 神田 洞光 | 聖徳村公 |
| 田中 久 | 聖徳村公 |
| 丸山 昇 | 豊栄町中央公 |
| 太田 雪三 | 新発田市菅谷公 |
| 大沼 俊爾 | 松浦公 |
| 風間 良昌 | 柏崎市中央 |
| 大矢 康男 | 柏崎市田尻公 |
| 南 金平 | 新発田市関原公 |
| 竹田 惣治 | 鏡淵公 |
| 高橋 文字 | 白山公 |
| 加藤 成子 | 新発公 |
| 春日 虎夫 | 豊照公 |
| 大山 由蔵 | 湊公 |
| 上田 兵策 | 栄公 |
| 村山 孝友 | 入舟公 |

元職員の部

- | 氏名 | 所属 |
|--------|------------|
| 石田 浩三 | 江部 譲二 見附市公 |
| 皆川 厚 | |
| 山谷 輝子 | |
| 石崎 亨 | 長岡市上川西公 |
| 横山英男次 | 元北蒲原郡中央公 |
| 神誠 正雄 | 元佐佐木町中央公 |
| 近藤 昇元 | 加茂村公 |
| 石川 貞一元 | 河崎村公 |
| 長谷川 清 | 南蒲原郡中之島村公 |
| 高橋 刃 | 三島郡野板町公 |
| 森山 堅吾 | 出雲崎公 |
| 松永 直江 | |
| 関原 賢昭 | 新井市公 |
| 植木 玄次 | 刈羽郡黒堀村公 |
| 若杉 繁一 | 内野町公 |
| 伊勢 勘治 | 西頸城郡能生町 教養 |
| 青山 四郎 | 北魚沼郡広神村公 |
| 星野 徳一 | 岩室村公 |
| 羽生 三郎 | 吉田町公 |
| 小林 誠 | 西蒲原郡彦根村公 |
| 本間 英利 | 相川町外海府公 |
| 筈井敏四郎 | 小水町公 |
| 打木 一 | 佐渡郡畑野村松ヶ崎 |
| 渡辺幸子工 | 鳥屋野公 |
| 佐藤 藤市 | 鳥屋野公 |
| 小池 正雄 | 大形公 |
| 太田 政衛 | 沼垂公 |
| 残間 勝司 | 山下公 |
| 高垣 文子 | |

堀之内公民館



(上) 堀之内公民館の全容



(上) 青年団指導者講習会におけるキャンプファイヤー

新津公民館



(上) 婦人学級に集るところ



(上) 刈羽村青年学級生との交歓会

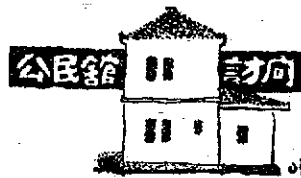


(上) 人形製作教室

鉾山祭りの七月十三日まで竣工落成の予定を八月

ましよう。

半年はオケサを求めて集まる観光客にあげられる相川町です。この観光客に佐渡情緒を味わってもらおうと公民館もこの点に大きなウェイトをかけておられました。「腰かけは立派ですよ」と富田館長さんは御自慢でした。東京の一流の映画館のものにたそいで、この腰かけにすわって相川音頭や佐渡オケサや相川長句をみたり聞いたりして頂いたら、さぞかし観光客も夢の国、詩の国佐渡を心ゆくまで満喫されることありましよう。



相川町公民館の巻

おけさ会館もかねて
半年はオケサを求めて集まる観光客にあげられる相川町です。この観光客に佐渡情緒を味わってもらおうと公民館もこの点に大きなウェイトをかけておられました。「腰かけは立派ですよ」と富田館長さんは御自慢でした。東京の一流の映画館のものにたそいで、この腰かけにすわって相川音頭や佐渡オケサや相川長句をみたり聞いたりして頂いたら、さぞかし観光客も夢の国、詩の国佐渡を心ゆくまで満喫されることありましよう。

上旬までのびたそうですが、もうすっかり出来上がっています。第1回の使いぞめには、相川町が新空運動場の指定を受けていますので、八月十五日に相川町新空運動推進員研修会をやる予定です。
二〇〇坪余の公民館で図書室講座、集会室もありますから、相川町の主たる公民館事業である青年教室、婦人教室、一般教養教室、産業教室も軌道にのりつつありまよう。また相川町演劇研究会やその他いろいろなサークルからも大きな期待が寄せられています。(佐渡・相川)

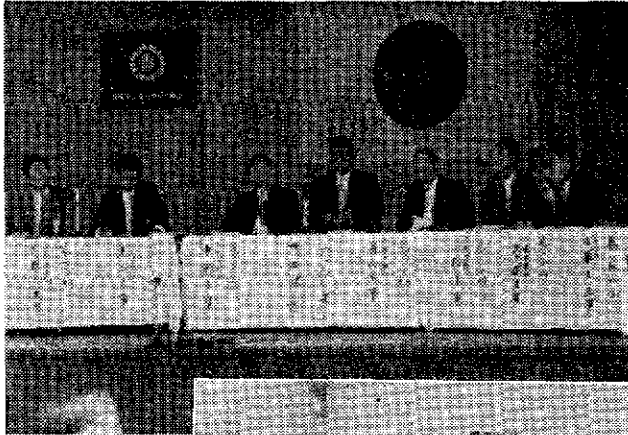
八つの分科会開かる

【写真右】
グループ活動をどの
よみに進めるか。
第八分科会の模様。
司会原半左衛門氏。
発表者、松井美津子
氏。

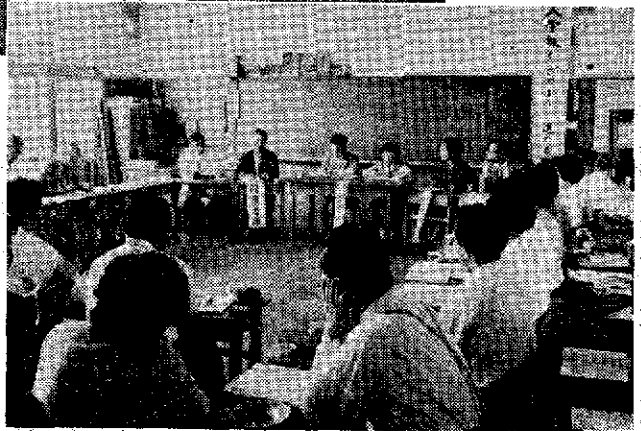
大会三日、八つの分科会は四百
余名の参加者によってそれぞれの
テーマにしたがって熱心に討議さ
れたが、詳細は次号に載せる予定。



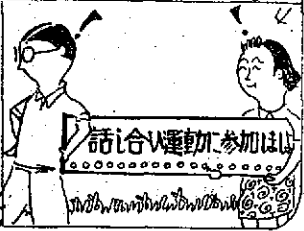
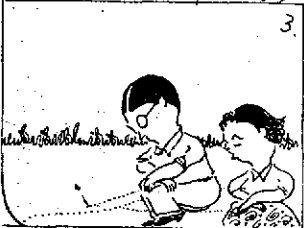
【写真左】
各出張所社会教育主事による分科会報
告討議の壇上。
中央の司会者は増井保三郎氏



【写真右】
婦人学級をどのよみに進めるか。第六分科
会の模様。
司会は守道ハル氏。発表者奥田正太郎氏。



公民館どん



新しいフィルム

●心と病氣 2巻・20分・文部省選定・青年成人・私たちの身のまわりには原因のわからない病気がたくさんあります。吐気、喜びを見つけないで、若い世がする、目まいがする、胃が重たいなど、農村の嫁の姿をえがいたもの。嫁自身の責任が保証人になった事が原因だと明らかになる。これらの現代病の原因は私達の毎日の生活態度にあるということ。この映画によって知ることができる。

(新潟・上越)

●あたらしい道路 1巻・11分の社会の矛盾をえがいたもの。青年・成人・産業の発達にとりなつて、陸上交通の中心が汽車から自動車に移つて来たために道路の改良も交通機関の進歩にたつて行かねばならない。この映画は、道路のはたらき、産業と道路との関係、新しい時代の道路とはどんなものであるかを、五分、(竹市民演劇会合同公演、藤示した)。(中越) 薬と老嬢(新潟)、(日) 耕作をめ、ちえ子の世帯、3巻・80分、さして(花のお江戸へ越路ち青年・成人・婦人学級・表面はちみ(小千谷・東京)、(佐渡近代化された農村も、一歩入つて(佐渡へ)、(新潟・上越・中越)で個々をのぞく見ると、もの下越・佐渡)

●おやじ 2巻・22分・青年・成人。一家の経済的支柱として父親はくる日もくる日も、おやじに、世の中と対決している。女房や子どもたちの考えは、苦しみも「おやじ」の中にはかくされている。一家を背負って立つ父親の立場を通して、今日

(新潟・上越)

内山義文氏 新井

全国表彰に輝く



内山氏は昭和二十七年十一月、視聴覚教育と講演によって公民館新井市公民館長に就任以来施設の活動と普及にまで浸透させ、婦人の自主的活動を促し、公明選挙、新生活運動の普及に力を注いで、明朗健全な郷土の建設と住民の生活および文化の向上に貢献した。

昭和三十二年、市長は各分館(九館)に専任充実に努め、映写機・録音機・幻燈機の設備の増進をはかる本分館合せて十五名の専任職員をともに合併地域の公民館活動の擁しているのは、氏の熱意の反映不均衡の是正につとめた。とくにであるといえる。

全国大会初参加の記

五泉市 皆川 信吾

今日の地方財政において多くの市町村が財政的になかなか容易でない現状ある中、立派な建物がさかえつつある中、市町村建設されたことは小松市当局並びに市民が如何に公民館活動に理解があるかがうかがわれた。このよう途中小松市高堂町公民館外一館を視察したが、これ等の公民館は地味な立派な会場で大会の名にふさわしい成果を収めたことについて、関係の皆様方に深く感謝の意を表す。

新市建設の途上にある五泉市に、各地域社会の住民の公民館

りこれからでもおそくはないので各市町村の実態を研究して立派な公民館にしたいものである。

去る六月二日の人事異動で公民館長に就任したばかりで公民館については全く知識経験がないので、今後皆様の指導と鞭撻をお願い申上げる。

全公連大会雑感

小出町 坂西 徹太郎

一、小松市はじまって以来の大会で、三千の会衆を収容し得る大建物を、諸君は、近代科学の粋を凝縮した施設である。会の運営等準備委員の力を引くものがあり、全市を挙げての献行ぶりがかがえた。

二、会場は市の新築にかかる公衆の藩候以来の県民性と歴史、産業、人材、宗教、芸能等の特徴を笑例を挙げた。これをみるために本大会を、人財千万に足らない小松市に開催したのであるから、これが三千の会衆に多少でも益するところがあれば幸いであるといえる。

四、私は四分科会に出たのでその概要を述べて見たい。主として青年学級の運営について討議され、出席者は多かったが意見の発表が少なかったのは、青年学級の運営に困難があるかを物語るに思ふ。その行き方については、一つは青年の生活に対する教育研修の場としてゆたかに、一つは修了資格を与えて、ある程度義務的の形で進めるか、という二つの流れがあったように

大会宿舎のや旅館前に勢ぞろいした新潟県参加者の面々



修得すべきとし、いかにして人を育てることを確信された。山麓長の機事進行処理は時間的に効果的にも最も適切であった。と補助を拡大することであつて、要するに年令的に、職業的、学力経験に異なる者の集りをいすれも洗練されて観察を臨評満足し得る教養を身に付けさせてせしめるに十分であつた。

五、全体討議の結論として、公民館に専任職員の出置と優遇の確かな印象的であった。我が内山義文氏の拡大強化の要望。更に青年学級も表彰者の一人、同氏のために主事の必置等が強調され、執行謹しんで敬意を表する次第である。部において総力をあげて政府に当る。

小松大会に参加して

内野町 古俣 常由 起

今までかつてない参加者といふ、杜撰な修正といふことに軽々わかれたが、結論から申し上げるに、中には随分の深さをほらば、大会気分だけは上支で、内しかねない空気を見られたりして、容はきわめて低調であつた上に、さらにあまのじゃく流邪を

もともと大会というものは、一種のお祭り行事であり、歯をたえのある充実したものを内的に求めること自体がおろかなことなのかも知れない。私がかつて参加した福島大会や日光大会では、それでもお祭り気分だけでない真味味があった。公民館法の制定という希望をかき、殺氣立ち、文部省の小使(夫礼)何するものぞ、の気概

大会を終えて十幾時間という鈍行列車にゆすられ、疲れた頭の中で、ポツンと残ったのが、山中波車の獅子舞であつたり、大坂のリスミカルの騒音であつたこと、いさかかれながら、ものびく、あま

公民館活動が住民全体のなかには足をおろすにはどうしたらよいか

講演式討論会

講師

- 河津市長 氏田 良隆氏
- 寺泊町教育長 藤田 武氏
- 新潟日報学芸部長 吉田 恭氏
- 県連青訓団長 首藤 恒雄氏

司会

- 羽茂村公民館長 庵原 健氏

氏田 一行政ればならない。青年団では社教者として、法改正に反対したが、社会教育主としての立場から、事が数量を言ふことはよこし申しつけた。いこうと私個人としては賛成である。

公民館活動は美
際生活のなか
ら問題を見し
ていくあり方
で行きた。地
該団体および
係関係との連
も大切である
社教法も改正
れたので、こ
からの公民館
は優秀な職員
を配置したい
と思う。

首藤 一、社
会教育関係予
算が少ない。し
せが公民館に
ているのでは
いか。社会教
育は学校教育
と同じ見られ
ない。

吉田 日報の記者で市内の公民館のあり方を
知っているもの
は一人もいない
。公民館職員
の役割は想像
に難くない。公
民館職員は、
金を問題ばかり
でなく、人は金
をカバする。

藤田 おしつきの活動でなく、

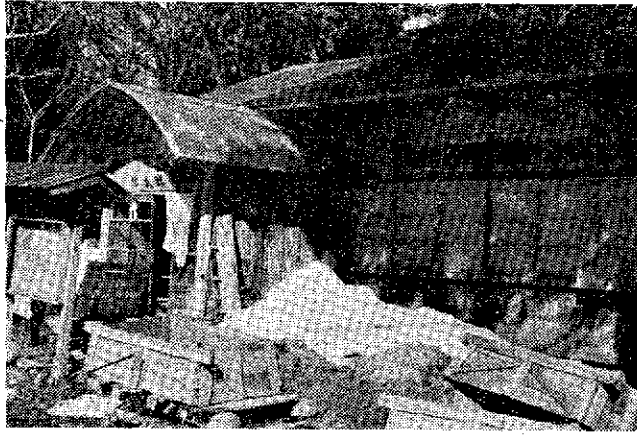
公民館活動の第一は雰囲気をつくりに、ほんの音威を懸けている。職員は趣味として仕事をすることが大切で、たとえは法改正であるが寺泊では県のコンクールに、位になってから町民に流された。この行き方は逆であるが、時にはこういふ行き方もいいと思ふ。青年団などいろいろな悩みをもっていると思ふが、青年団はあせらずのんびり行きた。公民館職員は成長している。成果をあげられつつある。公民館は、民間職員は何かがあるが、広報活動とは機軸の進行は意味して、船長を常勤にするより職員をよやした方がよいと思ふ。

吉田 私は公民館大会と創仙亭が必要である。



〔左から氏田・首藤・藤田・吉田・庵原の各講師〕

「おらたちの公民館はおらたちの手で」 安田村小松部落の公民館完成



〔落成式当日の同公民館〕

小松部落の青年会は、終戦後新すまざる河であった。生青年会を称して決定した。当時会員数は約八〇名位で、軍隊生活を終えた青年が幹部で、どこでもみられるようになった。集会所がないために学校を利用して、山間遊地で吹雪、風雨等に悩まされ、手始めに阿賀の川原を開墾して桑田を植えて十一万円の収益を得た。以来、砂防工事、石背負、標高三百の山地での杉皮背負、石田力等、血のにじむ努力が続けられ、二十八年には十二万円の収益が得られた。これら専ら収益は建設資金に充てられ、青年会の運営資金に用いられ、青年会の出稼等のため、減少して行かぬが、あつたが、苦しい場が得られる喜びはそれにもまして大きかった。

昭和三十一年一月東蒲三川村の北浦安田村へ分村合併した結果、駐在所が不要となり、松下げを受け解体政策をみる。青年学級は村のモデル学級として推進役を果しており、部落の茶の間として小さいながらも、会議室、図書室も備え、村づくりの中心になっている。

出席もにぶりがちであった。そんな時「もう少し近くに独立した集会所があれば」との声が起り、建設資金の調達に乗り出した。

山間遊地、耕地が少く経済的に豊かな部落でないことは青年自身よく知っており、その経費捻出は重

月報及編集委員に五氏を委嘱
第一回幹事会長岡で

佐藤 治 (中野城郡大瀨岡公民館)
高橋 助夫 (柏崎市西中通公民館)
徳間 竹二 (出雲崎町駅前公民館)
山本 三 (佐渡郡真野町公民館)
鈴木 三 (村上中央公民館)

